

号外とじょかんばん

庄子隆弘さんに聞いた、

図書館体操誕生秘話！

みなさんもご存知のことと思いますが、ちまたでは『体操』がちよつとしたブームになっていましてよ。

耳慣れないかもしれませんが、昨年「図書館体操」なるものが考案されました。テレビやラジオなどでも取り上げられ、全国的に話題となつていのですが、今回は「図書館体操」を考案された、庄子隆弘さんへのインタビュー記事を掲載します。

二時間近く沢山お話頂きましたが、庄子さんノド大丈夫でした？

図書館体操って？

「何度も同じことを聞かれていますと思いますが、まず「図書館体操」とはどんなものなのでしょう。」

庄子 「こちらは図書館体操、第一」になるのですが、図書館員の日常業務の動作を体操にしました。

「なるほど、図書館の日常業務ですね。一般的には知られていないと思いますが、案外色々と体力も使いますよね。」

庄子 そうなんです。実際、書架移動の時、本を大量に移動する時ですが、ダイエットもかねて、脇腹とか意識して大げさに動かしてみたいんですよ。そうしたら、「あれっ、これって体操にしたら面白いかも」と思いついたのがきっかけでした。

「わかります！書架移動って本当に体力使いますよね。腰を痛めたりしかなないし。」

庄子 図書館員は静かに座って仕事をしてるって思われるけど、実は体力必要です！

ひょうたんからこま？

「一人で動きなど考えられた？」

庄子 はい。全くの一人で考えました。実は、ひょうたんからこま、なんです。最初は3つの動作しかありませんでした。MLU(みちのく図書館員連合)の茶話会で図書館体操を発表したのですが、これがかなりウケたんです！それから仕事の動作を考えつつ、動きを足していきました。今では13の動作に落ち着きましたけど。

「皆さんノリがいいですね。そこから図書館総合展などで実演されましたよね。仙台でやった時は会場に私もいました。周りも「なんだなんだ」って感じで一緒に体操に巻き込まれちゃいました。」

庄子 会場盛り上がり過ぎてました？嬉しいな。この後、横浜で開催された第14回の図書館総合展のポスターセッションに「図書館体操」をテーマに参加しました。展示ブース前や中央ステージなどで何十回も実演しました。いやあ、みんな本当にへろへろだったんですが、気分的には爽快でした。

「かなり宣伝になりましたね。体操を目の前で見られた方、あるいは体操を実際に体験された方の反応はいかがでしたか。」

庄子 なかなかよかったです。You-Tubeにも図書館体操をアップしているのですが、みなさんの要望があったのでそうしました。「熱いうちに作れ」って感じで勢いで作りました。あの映像は、図書館総合展の最後に残ったメンバーで撮ったんです。この時のメンバーですが、偶然にも東北各地の図書館員が集まる感じになっています。

「東北各地のメンバーですか。まさにMLUという感じですね。You-Tubeは皆さんの要望にお応えしたということですね。」

You-Tube 11月某日で再生がなんと3万回を突破しています。すごいことですね。



インタビューの様子

庄子 はい。びっくりです。最初は、YouTube を見た知り合いが、おもしろいとかコメントをくれてたんですが、1万回超えたあたりから、図書館以外からの反応が始めました。

―図書館以外といますと？

庄子 学校や大学生、マスコミからです。「こんなに体力がいる仕事だとは思わなかった。」とか「図書館の人って、本を貸す以外にも色々やっているんですね。」といった感想がありました。

―図書館の貸出以外の仕事って見えないですよ。図書館を知ってもらおうという意味でも、十分意味がありますね。図書館サイドの人間としては嬉しい限りです。そして、図書館体操のパロディー版もあるとお聞きしたのですが。

庄子 ある日、DVD付きのお手紙が届きました。最初怪しいなあと思ったんですが、聖学院の中高生が、図書館体操の新バージョンを撮ったものが送られてきました。音楽もベースやキーボードを駆使したオリジナルで。それから筑波大学では、学園祭でコスプレした子と図書館キャラクターの「がまじゃんぱー」が体操してくれました。周りに子どもが集まってきて、楽しそうでしたよ。

―面白いですね。他にはNHKの取材もありましたよね。

庄子 「NHK特ダネ！投稿『動画』」でしたが、取材は1日かかりました。私への取材もありましたが、VTRのなかで、横浜市都筑図書館のみなさんが、開館前に体操をされている様子も取材されています。それから、「OH！バンデス！」解決リョウ様のコーナー（2013年3月22日放送）でも取り上げて頂き、リョウ様も一緒に体操したんですよ。何度も体操したので良かったです。それにこの取材の前日に飲みすぎて、声が出ないんですよ。緊張もあつただけ。

―庄子さんでも緊張するんですか。私たち図書館畑を歩いてきた者から見ると庄子さんのような方は大変珍しいと思うのですが、よく言われませんか？

庄子 はいはい。図書館員らしくないとよく言われます。実は、以前放送局のバラエティー番組の制作をしていたんですよ。なんとなくわかるでしょ？そこで、リサーチの仕事で図書館を利用することがあつて、図書館ってすごいところだなと。

しかし、理想の図書館はなかなかないとも思いました。それから、司書講習で司書の資格を取り、公共図書館、大学図書館を経験しました。

―納得です！庄子さんの職歴興味ありますね。バラエティー的な発想で図書館体操に行きついたんですね。もうひとつ気になるのですが、理想の図書館ですか？

庄子 そうですね。今では普通になっていますが、レファレンス機能です。情報を必要としている人に、必要な情報を確実に提供するということです。かゆい所に手が届くというか、アメリカの映画に出てくるようなカッコイイ存在になりたい。最近図書館界にも面白い人が増えている気がします。

10パーセントの思いを大切にしたい

―よくわかります！ただし、図書館について庄子さんと語ったら、一晩あつても足りなくなってしまうので、図書館体操のお話に戻します。図書館体操のポイントは何でしょう。



庄子 動きについてのポイントならいくつもあるのですが、体操を作ったのには2つの思いがあります。90%は「ふざけ」ユーモアを効かせて作りましたが、あとの10%の思いを汲んでもらえたいと思います。

―10%の思い？

庄子 はい。一つは図書館を面白がってもらいたい、社会のインフラとして意識してほしいということ。そして、二つ目に、震災を記憶にとどめるということ。同時に防災の意識も常に持ってほしいという思いです。

―そうですね。図書館体操のなかに、「書架から離れてください！」と声を出す練習も入っていますね。



庄子 図書館員って日頃静かに仕事しているから声をとっさに出せない。今回の震災の時も、声を出せなかったという人もいます。日頃から声を出す練習が必要だと思ひ、体操の持つ繰り返しという特性を活かしてあえて声を出すということを入れました。テレビ番組で観た痴漢対策がきっかけになりましたが、本家本元のラジオ体操には、この声を出すということとは入っていません。

— 庄子さんオリジナルですね！

庄子 思いついたとき「やった！」と思ひました。これがないと図書館体操ではありません。

— 図書館体操のその10%の思ひを大事にしたいですね。伝わっていると感ひますか？

庄子 伝わっていると思ひます。大阪や九州からも体操をしたいと色々お話頂ひてますが、この思ひは汲んでもらっています。

業界ウケは必至？

— 10%の思ひがよい形で連鎖してくれることを私たちも願っています。次に、体操の動きについてお伺ひいたします。個人的にレファレンスのときの「うんうん」ってやる首の運動、好きです。

庄子 基本的に内輪向けに作っているのですが、図書館の中でもわかるものとわからないものがあるんです。裏話をするところ、このレファレンスの件は実はレファレンスを受けて、最初は「こちらはお答えできかねます」という横の首の動きだったのですが、否定的な要素を入れるのはやめようということだったのでこういう形に落ち着きました。

— そんな裏話あったんですね。他に、制作秘話はありますか？



庄子 先ほど話題にできました「書架から離れて下さい！」という時の「書架」という言葉なのですが、こちらは専門用語なのでかりづらひのではという話が出ました。でも「本棚」から離れてください」だと語呂が合わないので「書架」を使っています。

— なるほど、やはり作った本人にお話しを聞くという醍醐味ですね。これに関連してですが、こちらは図書館体操「第一」ということですが、「第二」を作る予定はありますか？

庄子 これもよく聞かれるのですが、神から降りてこない駄目！一応、第二は利用者向けというか、図書館の利用法を取り入れられたら面白いと思ひうんうんだけですね。なかなか動きに繋げようと思ひうと、実際は難しいかな。

東北の図書館員元気です！

— 「こじつけ」でもいいので是非作ってください。誰か面白いアイデアを持っている人、庄子さんの周りにいませんか？

庄子 いますよ。MUSICのメンバーですが、彼女が「図書館をもっと楽しくしたい！」って叫んだのを忘れません。凄いことですよ、面白いつて思ひました。彼女は、北海道に異動になったのですが、北海道で図書館体操の新バージョンを作るといつて、フェイスブックを立ち上げています。

作りのチープさがいい

— 最後に、図書館体操について一言。

庄子 図書館体操はこれ以上でも、以下でもない。作りのチープさが良さであつて、洗練してもしようがない。図書館を面白くする仕掛けとして、東北の図書館員元気ですよという思ひも込めてやっています。「昔、震災があつた」とか「図書館ってね」と言葉で説明するよりも、なんか知らないで体を動かしていたら図書館体操だった！みたいな感じ、知らないうちに生活の中に浸透するという形が理想です。こういう仕掛けが図書館にあると図書館ももっと面白くなる！と確信しています。

(インタビュー・・・図書館 C.yamaki)

